

## NEWS LETTER

事務局 ■ 社団法人 長野青年会議所 内

Tel : 026-228-3278

http://www.sekaisan-zenkoji.com

善光寺の世界遺産登録をすすめる会

連続講座  
善光寺の世界遺産に向けて  
新しい価値の創造に向けて

9月20日から連続講座善光寺の世界遺産に向けてが開講されています。

## 第一回 報告

善光寺の世界遺産について、まずは地域の生きている遺産についての価値を知り、思索を重ねる機会として位置づけています。勿論、単に過去の歴史や文化を振り返るのではなく、「生きている」遺産らしく、そういったものが現代の日本人の心とどのように結びついているのかを共通のテーマとして掲げています。

既に開催された第一回では信州大学人文学部の笹本教授をお招きして「善光寺をめぐる結界」として講演をいただきました。善光寺地区の七不思議といわれるものをひも解きながら、やはり前述のテーマにあるように、「不思議」で終わることなく、そこに潜在している日本人の宗教観、宗教意識について皆さんで考えました。笹本先生が最後に、「宗派を問わず、老若男女の全て

を受入れる善光寺から真の世界平和への思想を発信する事を通して、今人類が世界で繰り広げる宗教を原因とした戦争や南北問題とされる飢餓、貧困の問題についての解決の糸口を示していく事が必要であり、それこそ人類としての世界遺産の価値をより高めるのではないかとしめくりました。世界遺産への運動を通して、その過程に長野からの新しい文化を発信していく糸口になればと考えています。



## 第二回 報告

25日は善光寺の世界遺産登録をすすめる会連続講座第二回「住民主体の世界遺産」として白川郷荻町の自然環境を守る会会長の三鳥さんをゲストに開催されました。

三鳥さんは世界遺産 合掌集落について、



自発的に自分たちの文化を誇りに思い、守ることをあたりまえのこととして実践している村について紹介されました。そして行政と住民と保存会が三位一体となって取り組むことの重要性をお話いただきました。

また、同日見学された東山魁夷館・東山画伯の「風景とは自分の心を写す鏡である」という言葉を引用され、文化財保護、景観保護もこのようなことを持って取り組まなくてはならないと力説されました。

武田徹さんとのトークセッションでは決して世界遺産はユートピアではない、苦勞話など、率直なお話も出るなど、会場の皆さんも世界遺産について身近に感じられたのではないのでしょうか？

## 第三回 ご案内

次回は11月15日(土)「善光寺地区の保存に向けて」(最終回)。

現在善光寺地区で始まっている保存活動、修景事業について整理するとともに、さまざまな運動が共和しながらこのまちを後世に残していくための方策について善光寺周辺地域まちづくり協議会会長の若麻績千冬氏と建築家で、当会の専門委員である宮本忠長氏が意見交換します。

三回共通のコーディネーターはTVやラジオでおなじみの武田徹さんが担当しています。温かな語り口のなかでもスパイスがきいたトークにもご注目ください。会員皆様お誘い合わせの上、ご参加お待ちしております。

## ニュースレター創刊に寄せて

善光寺の世界遺産登録をすすめる会  
会長 仁科 恵敏



1400年の永きにわたり、庶民の信仰を集め、日本人の心の故郷となっている善光寺は長野市民の誇りでもあります。この善光寺さんが世界遺産に登録されることは善光寺さんが世界の人々の心の故郷となり、その平和への思いと開かれた心が世界の人々のものになることを意味します。

こうした願いを発端として、善光寺の世界遺産登録をすすめる会が設立され3年目を迎えました。この間、さまざまな活動を展開して参りましたが、特に本年は善光寺御開帳の年にちなみ、新たな試みが次々となされ、新聞等にも登場する機会も増えて参りました。現在は連続講座が開講中であり、広く

市民の皆様方のご参加を得ながら発信を続けております。

こうした運動を広く会員の皆様にご紹介するため、このたびニュースレターを発行する運びとなりました。このニュースレターでは善光寺の世界遺産登録をすすめる会の様々な活動や善光寺さんに関する記事を掲載しながら、会員間での情報の共有や運動のさらなる喚起を促すことを目的としております。今後、会員の皆様からご意見を頂戴しながら内容を充実させることで、世界遺産登録運動の理解と賛同を多くの人々から得られ、大きなうねりへと発展する機会となることを強く期待しております。

信州冬絵巻  
善光寺ゆめ常夜灯  
～五色のライトアップ～

2月8日から15日に渡り、照明デザイナー石井幹子さんのプロデュースにより長野オリンピック5周年記念イベント「善光寺ゆめ常夜灯-信州冬絵巻-」が開催されました。期間中、善光寺界隈におきまして「ゆめ演奏会」「ゆめ屋台」そして、宿坊では展示会やお茶会が開催され、県内外多くの皆様に今までない幻想的な冬の善光寺を体感して頂きました。私たち善光寺の世界遺産登録をすすめる会としても、主催団体として参

加しました。善光寺の新たな魅力の創出が、私たちの活動にも寄与するものと考えています。

この冬祭りが来年、再来年と続いていき、10年、20年と歴史を重ねその歴史が文化として長野の地に根付くように、市民の手で創り上げていければと考えております。



## 総会の報告

2月12日、善光寺事務局の講堂にて、善光寺の世界遺産登録をすすめる会の2003年度第1回総会が時節柄ご多忙の折にも拘わらず、多くの会員の参加を頂いた中で開催されました。

前年度の活動報告に続いて提出された今年の活動計画は、善光寺のご開帳と重なる好機のため市民と共に機運を盛り上げていくのが数多くの企画が盛り込まれ3年目を迎える当会の活動に期待が高まる中、満場一致で採択されました。

会員の皆様には、是非一度、当会の活動を市民と共に実践している場へと足をお運び頂きたくお願い申し上げます。

## 賛助会員の募集をはじめました

本年は7年に1度の盛儀、前立本尊御開帳が挙行されました。この機会において、当会では会員証として特製ピンバッジを製作し、私たちの活動に賛同いただく賛助会員(サポーター)を善光寺境内にて募集しました。現在賛助会員は230名。さまざまな参加の仕方ながら、善光寺の世界遺産登録が多くの方々へ支持されることを期待しています。

賛助会員登録は現在も行われています。詳しくは事務局までお問い合わせください。



## 編集後記

本年は善光寺のご開帳ということもあり、善光寺の世界遺産登録へ向けての私たちの活動も、市民の皆さんに知っていただく機会を多く作れたのではないのでしょうか。そして多くの方があらためて善光寺善光寺の価値を再確認してくれたと思います。世界遺産登録をすすめる活動を通して、日本人の持つ宗教観、その象徴としての善光寺、そして世界遺産としての善光寺の姿を学ぶことができました。「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」の活動は、まだまだ始まったばかりです。今後、ひとりでも多くの方のご賛同を得ながらこの活動の輪を広げていき、世界遺産登録を目指していきたいと思っております。

# 「善光寺の世界遺産登録に向けて」 公開シンポジウムを開催しました



プログラム：2003年5月10日(土)開催

1. プレゼンテーション「世界遺産 善光寺」
2. パネルディスカッション「善光寺の世界遺産登録に向けて」  
長野総合研究所 代表 池田宗兵衛 氏  
建築家 宮本 忠長 氏  
長野市長 藤沢 正一 氏

プレゼンテーション「世界遺産 善光寺」では世界遺産の概略紹介と白川郷取材を素材にした善光寺の世界遺産登録運動の考え方を発表しました。特に善光寺信仰・善光寺文化といわれるものを世界遺産としての価値として置き換え、発信できたことは意義があっ

たものと思われます。パネルディスカッション「善光寺の世界遺産登録に向けて」では専門家・行政の立場から運動をすすめるに際して有意義な意見交換ができたものと思われます。特にデリケートな課題である住民合意、法整備についても触れられ、一方的な法規制ではないこと、そしてメリットも充分あることが紹介されたことは今後の運動に寄与するものと思われます。



このシンポジウムを通じて、世界遺産が遥かな夢から明確な意志と可能性を兼ね備えた夢(目標)となることに一定の前進があったものと思われました。

## 御開帳期間限定

### 善光寺の世界遺産登録をすすめる会特設ブース



本年は7年に1度の盛儀、善光寺御開帳が開催されたことは記憶に新しいですが、日本全国から多くの参拝客が集まるこの素晴らしい機会を有効に活用しようと、当会では大本願前に特設ブースを開設・運営しました。

ブースでは善光寺の世界遺産登録のポスター・パンフレット設置し、特製ピンバッジを会員証とする賛助会員の案内を実施しました。同時に日本郵政公社が同ブースで世界遺産シリーズと山野草絵柄の記念切手を販売しました。さらに白馬村観光連盟も参加し、ブース

の周りを白馬直送の山野草で飾るなど、信州の自然を凝縮した中で会の活動紹介を実施することができました。会期中は休憩所としても連日大勢の参拝客で賑わい、山野草の問い合わせや賛助会員の申込が相次ぎ、大変有意義な運営を展開することができました。パンフレットの累計配布数は5,000部を超え、全国の皆様に当会の運動をPRできたものと思われ



## 連続講座

# 善光寺を世界遺産に

—新しい価値の創造に向けて— 開催

当会では9月～11月にかけてコーディネーターに武田徹さん、そして毎回多彩な講師をお招きし、3回にわたる連続講座を企画します。私たちのまちに深く溶け込み、身近な存在となっている善光寺を後世に伝えていくためにさまざまな視点から善光寺について考えます。この講座を善光寺信仰・善光寺文化を包括し、その先の新しい価値の発見へ、触発の機会としたいと考えています。参加無料ですので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

会場：第一回	善光寺大勧進「紫雲閣」 長野県長野市元善町492
第二回	善光寺 寺務局講堂 長野県長野市元善町491
第三回	同上
日程：第一回	9月20日(土)
第二回	10月25日(土)
第三回	11月15日(土)
時間	13:00～15:00
定員	登録制(当日登録可)

## 連続講座

9.20 sat  
13:00 ▶ 15:00

終了  
(次頁をご覧ください)

# 第1回 歴史

会場：善光寺大勧進「紫雲閣」

## 「善光寺をめぐる結界」

講師 笹本 正治 氏 (信州大学 人文学部 教授)  
コーディネーター 武田 徹 氏

善光寺地区は境内の建造物などの宗教空間と宿坊群、そして仲見世などの商業空間が一体をなしており、外部との明確な境界もありません。これは庶民信仰として発展してきた善光寺の特徴です。しかし反面、その親しみやすさは日常化することで、大切な価値を忘れがちともいえます。一回目は善光寺地区を「結界」というユ

ニークな観点から見つめることで1400年を数える善光寺信仰・善光寺の文化とは何なのか、私たちが普段何気なく生活している地域の特異性やそこに存在する日本人の宗教意識まで考えを深めます。

## 連続講座

10.25 sat  
13:00 ▶ 15:00

終了  
(次頁をご覧ください)

# 第2回 思想

会場：善光寺 寺務局講堂

## 「住民主体の世界遺産」

講師 三島 敏樹 氏 (白川郷荻町集落の自然環境を守る会会長)  
コーディネーター 武田 徹 氏

世界遺産の先進地である白川郷から講師をお招きしての講演です。白川郷では「合掌造り集落」が世界遺産登録を受けていますが、その価値は合掌造りだけでなく、「結(ゆい)」といった表現に代表される人々の絆や集落に生き続ける人々の営みが文化として世界遺産に認められています。白川郷の世界遺産に対する取り組みは遺産を守るだけでなく、その思想を日本、世界へと発

信し、さまざまな役割を担っています。その運動を知ることで私たちは、善光寺の世界遺産登録運動の中に哲学を見出すとともに、善光寺の新たな価値の概念化について検討します。白川郷の事例を善光寺におきかえ、1400年を数える善光寺信仰・善光寺の文化とは何なのか。私たちが後世に伝えるものを考えます。

## 連続講座

11.15 sat  
13:00 ▶ 15:00

終了  
(次頁をご覧ください)

# 第3回 制度

会場：善光寺 寺務局講堂

## 「善光寺地区の保存に向けて」

パネリスト 若麻績 千冬 氏 善光寺周辺地域まちづくり協議会 会長(善光寺兄部坊 住職)  
パネリスト 宮本 忠長 氏 善光寺の世界遺産登録をすすめる会 専門委員(建築家)  
コーディネーター 武田 徹 氏

現在、善光寺地区はその有形無形の文化を後世に残すために、重要伝統的建造物群の指定やまちづくり環境整備事業など、さまざまな角度から検討や運動が展開されています。最終回の第3回では、各運動の現況や今後の展開、そして課題などを分かりやすく解説しながら、第

1回の歴史、第2回での理念を受けた上で、私たちが後世に引き継ぐためにしなければならないことは何かを、制度の面からさまざまな事業が共鳴しながら実現していくための方策について検討していきます。